【事業実施方針】

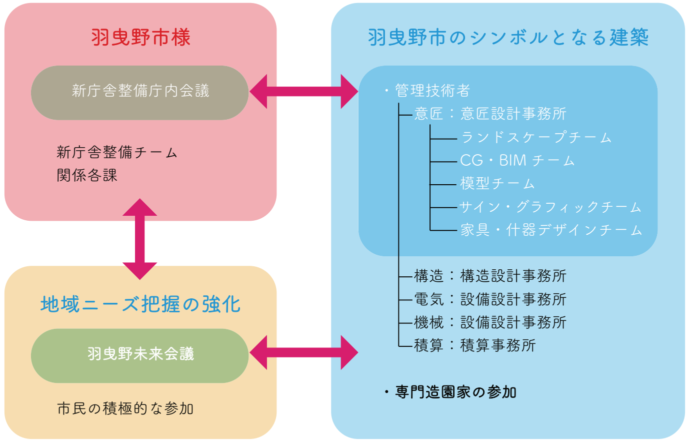
羽曳野市が住みやすく選ばれるまちへ発展するための庁舎づくり

1 時間制約の中で確実に業務を遂行する各フェーズにおけるマイルストーン管理

	令和６年度（2024）4-6	7-9	10-12	1-3	令和７年度（2025）	令和８年度以降（2026）
羽曳野市 新庁舎整備チーム 2 に詳細を記載	隔週会議開催 ★ 新庁舎整備チーム（本庁舎の在り方 / 防災拠点庁舎 / デジタル社会適合等）	★	★	最終報告 ★		
羽曳野未来会議 （各 4 回を想定）	基本方針説明	基本プラン説明 1	基本プラン説明 2	基本設計説明	市民の皆様に説明しながらワークショップを開催し、市民の要望の反映	
施設整備 5 に詳細を記載	基本設計 基本設計詳細工程は様式 3-3 に記載				実施設計	工事監理
グリーンコモンズ整備 6 に詳細を記載	重点課題・要点整理		導入実績調査			工事
ICT・DX 8、9 に詳細を記載	庁舎等 DX 調査	DX メリット課題検討	庁舎等 ICT 調査	ICT メリット課題検討	事業化アドバイザリー	

業務開始後、最初の３か月間は隔週程度で細かく会議体を設定し集中的に検討を実施し現状の課題を抽出します。議会日程等を考慮し、関係者の皆様と相談しながら羽曳野市様への説明や羽曳野未来会議をマイルストーンとして日程を決定しフェーズ進行判断可能な重要事項を漏らさずに管理し、施設の具体的な方向性決定を確実にしていきます。

2 高いニーズに応えられるプロフェッショナルチーム



■豊富な実績を持った管理技術者

多くの庁舎設計、同等規模の類似物件を行った知見から柔軟な設計提案、コストコントロールを行います。業務開始早期にワークショップ（意見交換会）を行い要望を計画に反映します。

■社内エキスパースを加えた体制

意匠設計に加えて各専門分野のチームがサポートすることで洗練された精度の高い計画を実現します。

■豊富な実績を持った協力会社

高いニーズ、精度の高い施設を実現するために豊かな経験や知見があり、多く共働経験のある設計コアチームを構成して、計画を進める体制とします。

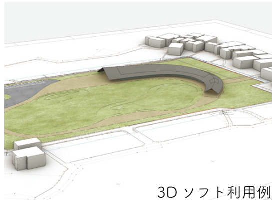
■世界遺産に配慮した有識者の参加

社内ランドスケープチームの他に世界遺産（古墳）との調和、景観、植生に配慮した有識者の参加する体制とします。

3 適切な意思決定を施す比較検討型提案

基本設計段階では様々な施設の可能性を発見し円滑に意思決定ができるように比較検討を中心とした提案方式を行います。毎回の打合せ時に複数案を同時に提案することで発注者が適切に判断を行い、妥当性のある設計を積み上げていくことが可能です。

4 明快にビジュアル化されたプレゼンテーション



3D ソフト利用例

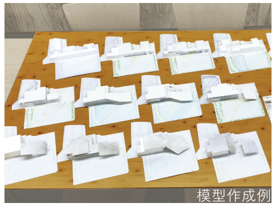
■3D ソフトを利用した検討

検討を進めるにあたりCAD を利用した 2D の提案に加え 3D ソフトを利用した検討を行うことで多角的に問題・課題を発見できプロジェクトを円滑に進めることができます。

リアルタイムレンダリング利用例

■迅速な建物イメージ化

建物のデザイン検討を行うにあたり、リアルレンダリングソフトを利用して迅速にイメージ化をすることで効率よくイメージ共有や理解しやすいプレゼンテーションを行います。



模型作成例

■イメージを深める模型作成

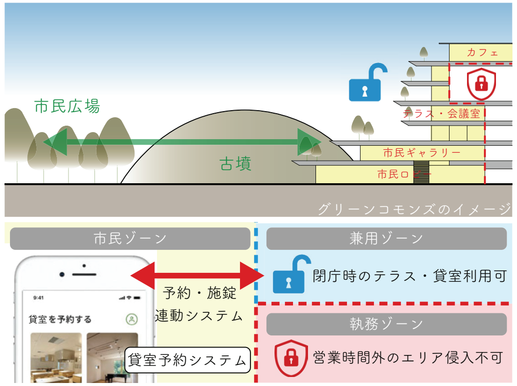
パースの他にイメージを深める為に積極的な模型提案を行います。また、レーザー加工機や 3D プリンタの最新設備を完備しており迅速かつ精度の高い模型検討が可能です。

5 みんなでつくる市民参加型の庁舎づくり

ワークショップイメージ

誰もが空間をイメージしやすい大きな模型やパースを使用したワークショップを開催し、一緒に考え、共に具現化へイメージを膨らませる、市民の方々に愛される庁舎づくりを行います。市民と一緒に考え完成後もイベントでの共働など、羽曳野市との長期的な関わりを持つことで市民の方々とともに庁舎を育てます。

6 開かれたグリーンコモンズの形成



グリーンコモンズのイメージ

閉庁時にも一般利用できるグリーンコモンズの形成を検討します。市民広場から連続されたテラス、共用部、カフェ、貸室等が閉庁時でも利用でき、開かれた庁舎を計画します。閉庁時での防犯管理では電子施錠、防犯システムの他、予約アプリ連動システムの導入を検討します。

7 地域防災力を高める運営の導入検討

平常時運用	災害時運用
学びあい掲示板 人材バンク等、町民の情報を一元化し、町民同士の交流・情報交換を行う掲示板	**災害掲示板** 避難情報・緊急情報・物資供給情報等、助け合い情報交換の場として活用
リモート環境 ミーティングスペースやテレビ会議システムを用いて企業・庁舎間でコミュニケーションを実施	**防災拠点間ネットワーク** 在宅やミーティングスペースから災害対応、情報取得 家族の近くで安心を守り、業務対応

フェイズフリーコンセプト導入案

東日本大震災時、東北地方の庁舎震災記録誌では、災害時に応じた訓練不足・準備不足・情報確保の苦慮・避難所共働運営の協議に時間がかかる等が記録されました。平常時の取り組みが非常時にも役立つ、フェイズフリーの概念を導入し、災害時の情報連携を容易にします。

8 社会変革を見据えた ICT 導入検討

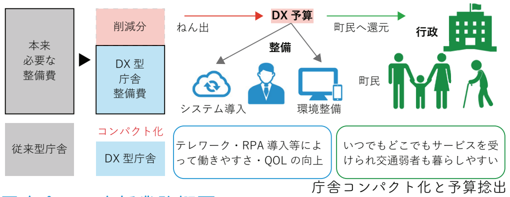
	令和６年度（2024）	７年度（2025）	８年度（2026）	９年度（2027）
建築・設備	基本設計	実施設計	建設工事	建設工事
管理運営	方針検討 → 要求整理	事業者選定	建設工事	建設工事
機器・設備類	導入方針検討 → 導入計画 要求整理	詳細仕様検討	建設工事	建設工事
施設維持管理	導入方針検討 → 導入計画 要求整理	要件定義	建設工事	トレーニング
その他	候補選定 費用対効果 導入方針 → 導入計画案 要求仕様 建築・設備	導入工程案	要件定義 / 構築 導入	トレーニング トレーニング

ICT 関連設備は建築・設備実施設計で工事発注仕様、詳細要件定義を実施

利用する ICT に応じて必要な計画・プロセス・所要期間を整理

スマートフォンの普及やクラウドサービスの発展、AI 技術の進化等により、様々なデジタル技術・サービスを容易に利用できるようになってきています。また、民間サービスの優れたユーザ体験に慣れた市民は、公共サービスに対しても”あたりまえ品質”としてデジタル活用を期待しています。目的・用途や利用者の特性に応じて、多くの ICT ソリューションの中から適切なデジタル技術・サービスを”賢く”選択する目利きと、その技術・サービスの特性に適した導入計画を提案します。

9 庁舎のコンパクト化・高機能化に向けた DX 推進



庁舎コンパクト化と予算捻出

■庁舎 DX 支援業務概要

デジタル社会に適合していく中で行政サービスの在り方、職員の働き方の変化に応じて求められる庁舎像も変わります。庁舎の整備に際して早期の着手が必要であり、本業務では下記の支援業務を検討します。

①新たな行政サービス提供の事例調査

②他自治体の実績調査及びノウハウ調査における提案

10 その他の業務実施における配慮事項

その他、業務を遂行するにあたり以下に配慮し新庁舎の計画を進めます。

①達成目標を定めた遅滞のない業務遂行

②対話型によるニーズの把握

③自由で開かれた交流の拠点となる施設

④長く親しまれる人にやさしいデザイン

⑤人的経費の削減：設備機器類集中管理、自動センサーの導入、設備システムの単純化、清掃の容易化

⑥ユニバーサルデザイン：誰にでも直感的に分かりやすいピクトグラム等を使用したサイン計画等

⑦ 100 年建築を見据えた維持管理制への配慮：長寿命部材の採用、汎用品採用、修繕等の定期実施、中長期修繕計画の検討

⑧躯体を守る仕上げや庇等の設えなど、設計企画段階での十分な検討

⑨ LCC・環境負荷に配慮した施設づくり